



# 希望の火迎える沖縄



Color the News  
モノクロ写真をカラーで見る  
1964

今月、沖縄が本土に復帰して50年を迎えた。写真は、返還の8年前、東京オリンピックが開かれた1964年(昭和39年)の那覇市の光景だ。繁華街に「歓迎聖火」の垂れ幕や横断幕が掲げられ、店という店に日の丸がひるがえっている。

ギリシヤで採られた聖火は、中東とアジアの各国に立ち寄りつつ空輸され、9月7日、那覇空港に到着した。聖火は「国内リレーの出発地」として、米統治下の沖縄を駆けめぐり、沿道に「歓迎聖火」の垂れ幕や横断幕が掲げられ、店という店に日の丸がひるがえっている。

その下の写真は、聖火を届けるために空港に向かう中学生たち。日の丸の小さな旗を振りながら、喜びの様子は屈託がない。

当時の記者は、中学校の教員になっていた元ひめゆり学徒隊の女性(当時37歳)を取材し、こんな記事を書いている。

△先生は、日ごろから生徒たちの「沖縄はこの国なの？」という質問に悩まされていた。「もちろん日本

よ」という答えに変わりはない。沖縄から「国内リレー」がスタートする、ということは、沖縄にとって他県とは比較にならない真剣な意義があるのだ。

聖火への熱き思いを受けて、政治が動き出した。翌65年8月、佐藤栄作首相が戦後初めて総理大臣として沖縄を訪れ、「沖縄の祖国復帰が実現しない限り、わが国にとって戦後は終わっていない」と演説する。日米首脳が沖縄返還について合意したのは、69年のことだった。

1 記事の中に、他の文章から引用した部分がある場合は、その部分を太字にしたり、その部分を < > や 「 」 で囲んだりするのが一般的です。記事中には、1964年に記者が書いた新聞記事を引用している段落があります。それはどの段落ですか。記事に < > を書き込みましょう。

記事中にある「当時の記者は～こんな記事を書いている」がヒントです。1964年の記者が書いたのは「先生は、日ごろから～」で始まる段落ですね。

2 [ ] に囲まれた部分は、1964年に撮影された写真について書かれています。記者はこの部分で、何を伝えようとしていますか。記事中から8字で抜き出しましょう。

沖縄の人の **聖火への熱き思い**

写真は、聖火を歓迎する人々や街の様子をとらえています。その様子を表すのにふさわしい言葉を探しましょう。

3 記事では、「国内リレーの出発地」という言葉が「 」を付けて表現されています。記者はなぜ「 」をつけて表現したのだと考えられますか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 聖火の国内リレーはゴール地点よりスタート地点が重要であると強調したいから。
- ② 米統治下の沖縄からリレーがスタートすることを批判したいから。
- ③ 聖火リレーには、国外リレーと国内リレーがあることをあえて示したいから。
- ④ 国内リレーと強調することで、沖縄を日本だと思っていることを示したいから。



4

「 」は会話文だけでなく、その言葉を強調したり、通常の意味とは異なる意味合いを持たせたりする時に使います。記事は、当時国内とは言えなかった沖縄を、あえて「国内リレーの出発地」と表現することで、沖縄への思いを表しているのだと考えられます。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

県民斯克戦ヘリ 後世特別ノ御高配ヲ...

沖縄戦での住民について記した有名な文がある。海軍で1万人の部隊を率いていた大田実司令官が6月6日、自決の直前に東京の軍あてに送った電報だ。

多くの青年らが防衛召集に進んで応募したこと、若い女性も率先して軍に身をささげたこと、軍の作戦変更にも文句を言わず従ったこと……。そして、草木の一本も残らないほ

日本軍司令官  
異例の電報

どの焦土と化そうとし、食糧も尽きかけている現状を伝えた上で、こう結んでいる。

「県民斯克戦ヘリ 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」（県民はこのように戦った。県民には後世、特別のご配慮をいただきたいをお願いします）

献身的に協力してくれた住民に感謝しつつ、報いることができなかつた無念を伝える異例の電報だ。



□ 沖縄慰霊の日

太平洋戦争末期の沖縄戦で、旧日本軍の司令官が自決し、組織的な戦闘が終結したとされる日。沖縄県は、条例でこの日を休日とし、毎年、戦没者追悼式などを開いている。1945年3～6月の沖縄戦では、アメリカ軍と旧日本軍が激しい地上戦を展開。約20万人が犠牲となり、沖縄県民の4人に1人が命を落とした。

(2019年6月28日、2022年5月13日、読売中高生新聞より)

沖縄では中学生以上の学生も、戦場におもむに赴きました。

沖縄慰霊の日は6月23日です。

コクッ

